

「口演童話」関係資料収集・公開プロジェクト

利用音源：玖珠町「わらべの館」所蔵音源

●久留島武彦翁の口演●

五色の魂

【はじめに】 武彦翁がまいた「夢のタネ」、武彦翁や口演童話の関係資料・情報があればご一報を

■ 今から半世紀前、日本各地を口演童話を語り「夢のタネ」を子供の心に蒔いて歩いた、お話の上手なおじさんがいました。明治大正昭和と日本にとって厳しく悲しい時代に「子供こそが次の世代の宝である」の信念のもと、児童文化の発展に尽くした口演童話家、それが久留島武彦です。

■ 口演童話とは子供たちを前に童話を語る児童文化の一つで、

今日盛んな絵本の読み聞かせとは違い、口演者（語り部）は身ぶり・手ぶりと言術だけで聴衆をひきつけなくてははいけません。対象は子供たちなので、年齢層・時季・会場・地域などの条件によって、話し方には変化が生じます。

■ このため、翁本来の足跡を知る方法は、活字化された講演録や伝記に加え、録音された“声の響き”に触れる必要が求められます。

明治末期から昭和 30 年代にかけて、全国のこどもたちを魅了したその話術の片鱗を、このデジタルブックでお楽しみ下さい。

■ 久留島武彦倶楽部では、書物では表現することが難しい口演童話における『声や響き、言葉の間』の大切さを知ってもらうため、武彦翁本人の肉声をデジタル化する事業を進めており、さらなる音声資料デジタル化をめざし口演童話関係の資料を収集しています。資料や情報があったら当倶楽部にお寄せ下さい（連絡先は巻末に記載）。みんなで後世に残るデジタル資料を充実させていきましょう。

久留島武彦倶楽部 主宰 桑野 英司

【口演の聞き方】 次ページの左下にあるON、OFF ボタンをクリックすると、イメージ映像とともに音声の再生・停止ができます。最初にON ボタンを押すと「マルチメディアコンテンツに関する信頼性を管理」という画面が立ち上がります。内容を確認した上で、その画面にある「再生」ボタンを押してください。音声の再生が始まります。

（音の大きさは、パソコン本体の「音量調整」で行って下さい）



(左のボタンで音声の再生、停止ができます。音の大きさはパソコン本体の「音量調整」で)

■久留島武彦翁

久留島武彦は、明治7年、豊後森藩12代藩主の孫として現在の大大分県玖珠町森に誕生しました。巖谷小波とともに、わが国の近代児童文化の礎を築いたことで知られ、口演童話や児童劇の開拓者でもあります。明治末期に、児童の社会教育機関としてお伽倶楽部を創設し、この全国普及にも努めました。童話ラジオ第1号も武彦の声によるもので、彼は書く童話作家よりも、話す童話作家の道を選びました。こどもの膝の前の友達になりたいと考え、大正期から亡くなる昭和30年代まで、盛んに全国を口演行脚しています。昭和35年没(享年86歳)。



■久留島武彦倶楽部

武彦翁の口演童話の素晴らしさを広めようと、大大分県内外の研究者、歴史愛好家らが2007年5月に結成したボランティア組織。主宰は玖珠町在住の桑野英司氏。関係著作権者から著作物公開等に関する委任を受け、資料・情報の収集と公開に務めている。関連資料／情報をお持ちの方は、下記事務局へ

〒879-4413

大大分県玖珠郡玖珠町塚脇「とんかつ東華」内 久留島武彦倶楽部

■オオイトデジタルブックとは

オオイトデジタルブックは、大大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN(なんなん)」の一環です。NAN-NANでは、大大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開しています。情報があれば、ぜひNAN-NAN事務局にお寄せください。

「五色の魂」初版では、テキストデータ併記とせず、「イメージ映像＋音声」の形式でまとめています。

久留島武彦翁の口演：五色の魂

2008年1月18日初版発行

編集 久留島武彦倶楽部

制作 川村正敏／別府大学メディア教育・研究センター地域連携部

発行 NAN-NAN事務局

〒870-8605 大大分市府内町3-9-15 大大分合同新聞社総合企画部内

©久留島武彦倶楽部